

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Breastfeeding and children's cognitive development up to the age of 4 years: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

授乳と子どもの4歳までの神経発達:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Breastfeeding Medicine

年: 2024

DOI: 10.1089/bfm.2024.0195

筆頭著者名: 西郡俊絵

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

世界保健機関(WHO)は、生後6ヵ月以上の母乳育児を推奨しており、先行研究では子どもの認知機能に有益であることが示唆されています。本研究では、生後6ヶ月までの授乳方法と2歳と4歳における子どもの神経発達との関連を検討しました。

方法:

生後6ヶ月間の授乳方法は1)完全母乳、2)母乳と人工乳併用(母乳は6ヶ月間与えたが、適宜人工乳を補充)、3)人工乳のみ4ヶ月以上、4)その他 の4つの群に分類しました。また、子どもが2歳と4歳時点の神経発達は、新版K式発達検査2001を用いて、認知適応領域発達と言語社会領域発達について評価しました。重回帰分析を用いて、授乳方法と子どもの神経発達の関連を検討しました。

結果:

男児 1,329 人、女児 1,398 人を解析対象としました。生後6ヶ月間に、完全母乳であった群と比較して、人工乳のみ4ヶ月以上の群は、2歳時点では男児と女児ともに、言語社会領域発達指数が有意に低いことがわかりました(偏回帰係数: 男児 -4.62、女児 -3.63)。4歳では女児のみ言語社会領域発達指数が有意に低いことがわかりました(偏回帰係数 -3.41)。認知適応領域発達は、男児女児ともに2歳と4歳で有意差はありませんでした。生後6ヶ月間の母乳と人工乳併用群は、完全母乳群と比較して、男児女児ともにどの領域も2歳と4歳で有意差はありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、生後6ヶ月間の授乳方法として、完全母乳は、人工乳だけ4ヶ月以上与える方法と比較して、女児では4歳の言語社会領域発達に有益である可能性が示されました。一方、生後6ヶ月間の完全母乳は、母乳・人工乳の併用と比較して、男児女児ともに神経発達に有意差はありませんでした。このことは、特に女児の神経発達においては、可能な範囲で母乳を(人工乳の併用でもよいので)継続して与えることが有益である可能性があります。研究の限界点は、授乳方法が母親の自己申告に基づくことです。

結論:

生後6ヶ月間の授乳方法が、2歳と4歳の子どもの神経発達と関連する可能性が示唆されました。